

明倫短期大学学会報告

による、性格の平均・普通型において高い成績を示した。しかし、これまでの研究より、識別試験を繰り返すことによって、指頭感覚の向上が見られたことから、今後は指頭感覚訓練を反復実施し、探針の操作技術を向上させることが必要と思われる。また、反復訓練において集中力が続かないとの感想が多いことから、いかにして集中力を持続させるかが今後の課題である。

明倫短期大学研究チームが試作した 歯科訪問診療ユニット

野村章子（歯科技工士学科）

口腔機能の向上は「歯科治療」「歯科保健指導」「専門的口腔清掃」「摂食・嚥下リハビリテーション」からなる。その中で、在宅や介護保険施設で歯科治療と口腔ケアを必要とする要介護者に応えるために、明倫短期大学研究チームは新潟大学および株式会社モリタ東京製作所とともに連携し、歯科訪問診療用ユニットを試作した。その仕様は、歯科材料や器具を搭載できるオールインワンで移動式、違和感を与えないデザイン、歯の切削に必要な機器の装備、簡単な技工作業スペースの確保、収納用の棚が組み込まれている、電源コードの一本化、吸引や注水のメンテナンスが簡単などであった。本試作機の仕様に対する歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士計17名にアンケートを行ったところ、移動性、収納性、切削・吸引機能、技工作業性、設置や診療準備の面で概ね良好な評価を得た。現在、介護施設へ搬送し、要介護者の義歯、充填、根管治療などの歯科治療や口腔ケア等に活用されている。

第33回（通算第116回）：2008年6月26日（木）

（座長：中澤孝敏）

部分床義歯基礎実習の進め方

佐々木 聡（歯科技工士学科）

部分床基礎実習の教育効果を向上させるために平成15年から各実習のステップ模型、資料の作成と改善を行ってきた。平成17年度から課題ごとにスライドを用いて全体の流れ、注意点の説明する方法も取り入れた結果、全体の流れが理解しやすい、説明のメモがとりやすい、実習室のモニタより見やすいなどの意見が得られた。また、写真より動画がよい、デモンストレーションの方がわかりやすいとの意見があった。学生にどの

技工操作の動画・デモンストレーションが見たいかアンケート調査を行い、学生が希望した技工操作の動画をスライドに追加した。翌年の学生に動画付のスライドで実習説明を行い、この実習説明についてアンケート調査を行った結果、動画があることで十分わかりやすい、スライドで説明されるとすごく解りやすかった、作業の流れを見ることができたので実習で作業がスムーズにいったなどの意見が得られた。これから多様化する学生教育にはさまざまな教材が必要になることを報告した。

歯科技工学生の英語

廣瀬浩二（歯科衛生士学科）

歯科技工士学科の学生に歯科医療用語を英語で指導する際に、どの範囲の用語を選択したらよいのか、その客観的な指標に乏しいのが現状であろう。そこで、教材作成に少しでも科学的なアプローチを導入しようとした。それが、コーパス言語学のアプローチである。

現在、歯科技工に限定したコーパスは存在しない。そこで、新たに作成することにした。例えば、歯科衛生士に関しては、米国、英国、カナダなどに歯科衛生士協会のホームページがあり、そこにはかなりのデータが蓄積されており、コーパスの作成に役立つ。しかし、歯科技工に関しては、歯科衛生士に相当するようなホームページに到達できなかった。そのため、主にアメリカの歯科技工関連のホームページから70の英文テキストを収集し、データベース化した。コンコーダンスーを使用し、高頻度出現語の中から、歯科技工関連の用語を選択し配列した。単語総数は22087語、文総数は1128文であった。更に、例文を添え、教材化を検討している。

第34回（通算第117回）：2008年7月24日（木）

（座長：栗崎由貴子）

本学実習生の歯科予防処置実習 自己評価の分析

渡辺美幸（歯科衛生士学科）

本学附属歯科診療所において実施している歯科予防処置実習について自己評価を行っているが、今回、その結果から現状を把握するとともに問題点の抽出を行い、歯科予防処置実習の見直しを行ったので報告する。

対象は、平成19年10月1日から平成20年3月27日ま

明倫短期大学学会報告

での期間に本学附属歯科診療所に6週間配属された実習生53名で、1ローテーション終了後に実習生本人が記載する自己評価表をもとに集計・分析した。

その結果、手用スケーラーおよび超音波スケーラーを使用時のスケーリング技術の向上やシャープニングの徹底など今後、学生教育の見直しが必要と思われる事項が明らかとなった。また、患者さんへのブラッシング指導だけでなく、実習生にも歯周疾患原因の説明等を行う機会を与え、コミュニケーション能力を身につける必要性を強く感じた。この結果を踏まえ、即戦力となる歯科衛生士の教育を目標に、日々の学生教育に役立てていきたい。

古代エジプトにおける「人体」

内田杉彦（歯科技工士学科）

死後の再生・復活を信じていた古代エジプト人は、遺体を来世で用いる肉体とするためにミイラとして保存した。彼らは、現世のみならず来世においても、人体が生命維持の鍵となると考えていたのである。当時、人体がどのように理解されていたかについては、医師の治療マニュアルだった「医術文書」が手がかりとなる。それによると、体内には数多くの「管」（メト）が通っているとされ、空気と飲食物を身体各部に運ぶメトや、排泄物や有害なものを排出するメトのネットワークと、それらを動かす心臓の働きが、生命を維持しているとされていた。心臓はまた、理性や感情、人格が宿るところとされており、それに対して脳の機能は理解されていなかったとみられる。古代エジプト人の「人体」概念は、現代の視点からすれば限界をもつものだったとはいえ、ある程度の合理性を備えており、「生命」維持の仕組みに対して彼らが抱いていた強い関心のあらわれと言えるだろう。

第35回（通算第118回）：2008年9月25日（木）

（座長：五十嵐雅子）

歯科技工士学科における新卒者の就職実態調査

相馬泰栄（歯科技工士学科）

平成18年及び19年の新卒者を対象に就職1年後の現状を調べ、その問題点を把握することで、今後の就職活動の資料にすることを目的に就業実態調査を行った。その結果、18年と19年の新卒者には大きな差がみられ

なかったが、就職先に対する満足度は50%であった。満足している理由として、職場環境がよい、色々な奨励をやらせてくれる、労働条件が良いなどであった。反面、満足していない理由としては長時間労働を挙げている。一週間の労働時間は51～60時間が最も多く40%を占めた。70時間以上働いているも約23%と多く、長時間労働を裏付けるものであった。学生時代の教育への要望は臨床に直結する実習を希望するものが多かった。今後の勤務継続の意思については継続するが約43%、できたら辞めたいや今後について分からないが約57%であった。職場に対する満足度や勤務継続の意思は、労働条件や職場環境が大きく影響し、新卒者の歯科技工士には厳しい労働条件（長時間労働、低賃金）が明らかになった。その為、労働条件の改善が強く望まれ、今後も継続して本調査を実施する必要があるとの結論に至った。

保険診療と診療報酬改定

市川伸彦（附属歯科診療所）

小林香菜子（附属歯科診療所）

保険診療において、2年毎の社会保険診療報酬の改定は大きな影響がある。改定では、点数の見直し、包括化や規則等の変更が行われる。最近の改定と日常臨床への影響を考えてみた。

H14年度から本年度までの4回の改定では、改定率は-1.5%～+0.42%で上下し、訪問診療料の適正評価と対象患者や要件等の明確化、一般と老人診療報酬の統合、多数項目で文書提供が要件化されたことによる事務作業の増加と一部の包括化等、変化してきた。当診療所での件数集計でも、改定内容にほぼ一致した変化がみられ、H20年改定では、医学管理料の他は大きな変化がなかった。

国民皆保険が維持されても、保険適用が狭まる、診療項目の包括化、重点部分への再配分等の仕組み上の様々な変化は十分考えられる。その変化の影響を大きく受けながらも、対応し臨床に携わっていく必要がある。